

花いちもんめ

劇団ひとりっこ第4回定期公演

作：宮本 研

演出：大石 和彦



日本には確かにこんな時代がありました。苦しい事・哀しい事は、早く忘れたい、話すのもつらいものですが……。

世情が混沌としている今、平和への祈りを込めて70年前を語る。戦争や紛争に巻き込まれた普通の母親の悲しいメッセージです。

2017年

8月19日(土)&20日(日)

場所：仙台市市民活動サポートセンター

地下：市民活動シアター

仙台市青葉区一番町4丁目1-3

19日午後の部	午後3時開演(午後2時30分開場)
19日 夜の部	午後6時開演(午後5時30分開場)
20日午後の部	午後1時開演(午後0時30分開場)

料金：一般前売 1000円(当日1500円)高校生以下は半額**【全席自由】**

主催：劇団ひとりっこ 問合せ 090-9428-3782 (武内)

後援：仙台市・(公財)仙台市市民文化事業団・仙台シニア劇団まんざら

チケット取扱い

平成29年6月18日より発売開始

予約方法：劇団ホームページ、E-mail、FAX、お電話にてご予約ください。

劇団ホームページ

<http://hitorikkogeki.jimdo.com>

E-mail

hitorikkogeki@gmail.com

Fax&留守電 022-227-3782

プレイガイド：せんだい演劇工房 10-BOX (窓口販売のみ・電話予約は不可)

Web 予約

<https://tiget.net/>

『花いちもんめ』で検索

★お名前・ご連絡先・観劇希望日時・ご予約枚数を明記の上ご連絡ください

★返信をもって予約完了となりますので、返信の無い場合はご連絡ください。

★ご予約の締切は8月17日(木)とさせていただきます。

◆ 戦後 72 年 ◆

忘れてはならない日本の歴史です

【あらすじ】 1982年5月作・作者：宮本研

“満州”という希望の大地、「王道楽土」「五族協和」の夢に憧れて渡った大地。

しかし敗戦によって見棄てられ、子を捨てざるを得なかった開拓村の母の物語です。

8月9日、日ソ不可侵条約を破ってソ連軍に攻められハルビンをめざしての逃避行。橋は関東軍に破壊され、満州という広大な大地を食料もなく彷徨う「死の旅」であった。手榴弾で自決する「母と子」、離ればなれになっていく「母と子」。

中国残留孤児は、こうして中国に残された「日本人の子ども」なのである。帰国して数十年後、「母」は深い哀しみの心を抱いて、訣別と贖罪の旅・「遍路」の旅にでる。

私の祖父母も開拓団で、母も満州で生まれました。(30代)

娘さんの乗った飛行機の音で胸が張り裂けそうでした(50代)

私も7歳で両親と兄・妹を亡くした引揚げ者です(70代)

これからの世を担う若者達にもぜひ観て欲しい(60代)

感想文：アンケートより抜粋

国が起こす戦争は、人を「人でなく」してしまう。始めてはダメ！(60代)

優しくわかりやすく感動した。母親の有難さがわかる(60代)

大変つらい内容でしたが、考える余地を与えられました(30代)

★ご協力下さった皆様

舞台監督：澤野 正樹 (短距離男道ミサイル) & 佐藤 仁美

演出協力：八尾坂 彰 (仙台シニア劇団まんざら)

照明：神崎 祐輝 (短距離男道ミサイル)

照明協力：沼田 益偉 (仙台シニア劇団まんざら)

音響：越後 裕司 (株式会社るねっく)

三味線：山本麻佐子 (浄瑠璃含む)

映像：桐島レンジ

制作：庄子 勝義 (仙台シニア劇団まんざら)

★お席は全席自由席となっております★

※会場案内：仙台市市民活動サポートセンター
地下：市民活動シアター

※交通案内

- ・JR 仙台駅西口から徒歩約 15 分 (約 1.1km)
- ・地下鉄南北線「広瀬通駅」西 5 番出口すぐ
- ・地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北 1 番出口徒歩約 6 分
- ・市営バス「商工会議所前」徒歩 3 分

今年も、終戦の日がある「8月」に上演できること有難く思います。

年に一度、しっかり歴史を見つめ、世界の平和が人々・自分にとってかけがえのないものと再認識して頂ければと思います。